

令和6年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏推進協議会 議事概要

開催日時	2024(令和6)年8月1日(木)15:00～16:00
開催場所	伊賀市役所5階 501 会議室
出席者	【伊賀市】 岡本 栄(市長) 宮崎 寿(副市長) 【笠置町】 山本 篤志(町長) 【南山城村】 平沼 和彦(村長) 中嶋 孝浩(副村長) 【山添村】 野村 栄作(村長) 前川 喜正(副村長) 【名張市(オブザーバー)】 北川 裕之(市長) 【事務局】 伊賀市企画振興部 風隼部長、中矢次長(兼総合政策課長) 伊賀市総合政策課 奥沢主幹、森林主査 笠置町企画調整課 草水課長 南山城村企画政策課 井上課長、橋本課長補佐 山添村総合政策課 椋本課長、井上課長補佐、菊山主事補
会議概要	1. 開会 ただいまから、令和6年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。 ★会議及び議事録公開の確認 本日の会議は、会議を公開し会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。また、会議録についても公開させていただきます。
	2. あいさつ — 岡本会長 あいさつ — — 出席者 自己紹介 —
	3. 議事 (1)副会長の選任について (会長) 当協議会の副会長については推進協議会規約第7条の規定により、「副会長は毎

年度最初の会議で会長が指名する委員をもって充てる」ということになっているので、本年度は「野村山添村村長」に副会長に就任をいただきたいと思うが、よろしいか。

— 異議なし —

(会長)

では、一年間よろしくお願いいたします。

(2)定住自立圏について—構想の概要について・推進協議会規約の一部改正について

— 事務局 資料1 定住自立圏構想について

資料2 推進協議会規約一部改正(案)

参考資料1 推進協議会規約 により説明 —

<事務局>

当協議会の組織構成について、一つご相談させていただきたい。規約第5条で「協議会は、連携市町村の長及び副市町村長をもって組織する。」としている。伊賀市、笠置町、南山城村から始まり、次に山添村が入られ、そして、この度名張市がということで、有難いことに圏域形成が充実してきている。一方で、数が増えたと会議の各首長等の日程調整が大変で、例えば、構成委員は首長とし、首長がご都合悪いときに副市長、副村長が出席いただくように変えた方が、実効性が高く、より円滑に進むと思う。

(会長)

事務局からの提案について、皆様のご意見を伺いたい。今のままあるいは、もう少し機動力良く、即応性を高めるとのこと。副会長いかがですか。

(副会長)

私は、大和まほろば広域定住自立圏にも参画していて、そこは5市町村の首長だけが参加している。首長が都合悪ければ副市長が参加する状況なので、今の提案に問題は無い。

(会長)

組織構成について、事務局提案のような形でよろしいか。

(全委員)

はい。

(2)定住自立圏について—令和5年度の取組及び令和6年度の取組について

— 事務局 資料3 令和5年度の取組及び令和6年度の取組 により説明 —

(副会長)

伊賀上野 NINJA フェスタ in 上野恩賜公園事業について、連携町村のブース出展で多くの方に圏域の魅力を発信できた。今年も是非継続して取り組んでいただきたい。

(会長)

やはり一緒になってやるというのが大事だし、良いことだと思う。

(副会長)

山添村を知っていて、お茶を取り寄せているお客さんがおられて、すごく嬉しかった。何か繋がりができると思う。

(2)定住自立圏について一名張市との定住自立圏形成について

一 事務局 資料4 伊賀市・名張市協定書(案)

資料5 パブコメ HP 掲載

資料6 スケジュール(案) により説明 一

(会長)

何かご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。名張市長、いかがですか。

(オブザーバー)

定住自立圏への加入を表明してから、市議会の方でも皆さん、前向きに捉えていただいている。取り急ぎ、定住自立圏形成協定の締結について議決対象にさせていただいた所である。この秋には、パブコメを経た上で協定案を承認いただいて正式に加入という運びにさせていただきたい。よろしくをお願いいたします。

(会長)

議会も行政側も着々とそうした準備を進めていただいている。私たちも早くご一緒できるようお待ちしている。

4. 意見交換 テーマ「これからの圏域づくりについて」

(南山城村長)

・「救急・健康ダイヤル 24 事業」、「病児保育事業」について、連携自治体にとって当該連携事業は大変ありがたい。

・「道の駅 お茶の京都 みなみやましろ村」について、近隣の皆さんから商品の出品があり、その協力により売上が増えている。

・「やましろミュージックキャンプ(プロの演奏家による弦楽器の指導が受けられるキャン

ブ)」について、一緒にやれたらと思っている。

- ・令和7年度に完成予定の高齢者福祉センター（機能訓練に特化型で、ショートステイ有。）について、利用促進を図りたい。
- ・建設系・土木建築等の技術者不足問題について、若い技術者をいくら募集しても応募が無い。圏域内で検討いただきたい。

（笠置町長）

- ・定住自立圏の認識について、住民には認識がまだ薄い。定住自立圏のことをもっと知ってもらいたい。住民にもっとアピールしていくことが大事。
- ・関西本線の取組について、県等の関係機関と一緒にやって一体的に取り組まないといけない。

（山添村長）

- ・「空からの圏域見学体験事業」について、継続して取り組むべきである。
- ・企業説明会について、連携自治体も参加できるようにするべきである。
- ・オーガニックビレッジ宣言について、今年度末に宣言する予定。取り組みを是非一緒に進めていけたら良い。
- ・防災備蓄 BOX(ガーディアン 72)について、連携自治体で導入検討いただきたい。
- ・インバウンド誘致{東奈良名張ツーリズム・マーケティング(略称:ENN)}の拡充について、この定住自立圏も加わって範囲を広めていけたら良い。
- ・圏域内の交流人口について、いろんな分野で努力し、交流人口を増やして、人口減少していく中でも、圏域がもっと発展していけたらと思う。

（名張市長）

- ・今後、人口が減少していく中でも、行政サービス・地域コミュニティが維持できる、そういうまちづくりを念頭に置いてやっていかないといけないという思いが強くある。
- ・人材不足について、単独市町村では難しくても、圏域内で専門的な人材を確保していくこともこれから考えていかなければいけない。定住自立圏の枠組みで人材に関しては外部人材の登用も対象になる。少し先を見越した議論もさせていただければ有難い。
- ・公共施設の老朽化・維持管理・保守について、場合によっては広域的に取り組んだ方が効果的にできるものもある。

（伊賀市長）

- ・私たちの圏域は、自然・歴史・文化と大変ポテンシャルの高いまち。将来先を見越して、他所に無いたくさんの宝物を活かしていく、そういうスキーム作りが大事。
- ・結びつきの深い地域(奈良県曽爾村、御杖村、月ヶ瀬村、津市太郎生)との連携について、オブザーバーとして参画いただけたら。将来に向け考えると必要になってこようか

と思う。

・1月の能登半島地震を経て、この圏域をどのように守っていくか、対応していくか、重要な課題があると思う。いろんな側面からの考察が必要。

・新しい伊賀市斎苑が完成したので、利用促進を図りたい。

・オーガニックビレッジ宣言について、名張市と一緒に宣言した。せっかく一緒にやっていくので、連携して取り組んでいきたい。

5. その他

<事務局>

議事以外の部分で、会議全体を通して、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いしたい。

(オブザーバー)

避難指示を出すタイミングについて悩んでおり、圏域内の状況を気にしながらやっている。上手く情報共有できるような仕組みがあると良い。

(委員)

熊の出没情報について、この間、島ヶ原から500m離れた南山城村で出没情報があったが伊賀市は知らなかった。避難指示もそうだが、安全安心に関わる情報について、圏域内でお互いに共有できる仕組みを先ずしっかり作る必要がある。

(会長)

仰っていただいたように情報共有は大事。担当部会で検討いただきたい。そういう重要性が高まってきたということ。

<事務局>

今の話もそうだが、今日皆さんからいただいたご意見は、部会へ共有させていただく。

では、これで本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。